

# 教会と国家：右傾化する時代における信仰と宣教

2007年度

11月26日

## 目次：

「憲法」改訂はなお可能性として	1
「内村鑑三不敬事件」を思い起こす状況	1
対応の多様性の背後に「教会と国家」の関係理解が	2
「日の丸・君が代」問題への対応について	2
ディスカッションを通して「信仰と宣教」のあり方	2
秋期神学研究会プログラム	3

## 「憲法」改訂はなお可能性として

昨年末の「教育基本法」改訂を背景に、「国家とキリスト教信仰—特に、改訂教育基本法をめぐって—」と題して春期研究会議がもたれた。今年の初夏には「国民投票法」が強行可決された。参院議員選の大敗北により、一時的にブレーキはかかったが、「憲法」改訂はなお可能性として残されている。

明治・大正・昭和〔敗戦まで〕の大日本帝国憲法と教育勅語の下、キリスト教会は制限下の信教の自由、そして戦局悪化のおりには「愛国心の表明」の名のもとに「日の丸掲揚、君が代斉唱、天皇崇拜、神社参拝」を



神戸改革派神学校

強要されてきた。敗戦を機に、「国民主権・基本的人権・平和主義」の憲法が与えられたが、朝鮮戦争を転換点にして、冷戦構造の激化に伴い、米国の世界戦略の下、戦前政治家による戦前回帰という方向をもつ「右傾化」が始まった。

国家的権威がデモニッシュな力を帯び始める時、キリスト教的霊性はあらゆる点で危機にさらされる…

〔福音主義神学37より〕

## 「内村鑑三不敬事件」を思い起こす状況

高度経済成長期には、その傾向は薄まったが、バブルの崩壊や湾岸戦争を通して、経済界からも米国の世界戦略の中での軍事的貢献が叫ばれるようになっていく。

靖国問題、元号問題、建国記念日、国旗・国歌法、教育基本法改訂

等の流れをみていくと、明治政府の国家形成の焼き直しをみているようである。教育現場においても、「日の丸・君が代」問題で教師の仕事を失う人も生まれている。明治時代の「内村鑑三不敬事件」を思い起こす状況である。

## 対応の多様性の背後に「教会と国家」の関係理解が

このような状況において「日の丸・君が代」問題への対応を含め、「右傾化する時代における信仰と宣教」のあり方・対応は教派・教会・個人において多様性を増し加えている。その背景には、神学的側面では教派・教会・個人における「教会と国家」の関係理解における多様性があげられる。また、歴史的側面では戦前から日本に存在する教派と戦後からの宣

教によって形成された教会という教派のもつ歴史の相違もあげられる。また、クリスチャン個人においては、戦前からのクリスチャンと戦後生まれのクリスチャンの体験の差異もある。また、宣教学的側面からは、教勢の沈滞が「社会意識よりも伝道の進展重視」という視点からの再考を促す向きもある。「日の丸・君が代」等への否定的対応は宣教にとってマイナスに働くのではないかとの考え方である。



学校全体

## 「日の丸・君が代」問題等への対応について

「日の丸・君が代」問題への対応を含め、「右傾化する時代における信仰と宣教」のあり方・対応が、教派・教会・個人において混迷を深める時代において、神学にたずさわって

いる私たちは、それぞれの多様性を尊重しつつ、なんらかの共通理解を模索し、それを発信し、地の塩・世の光としての役割を果たしていく責任があるのではないだろうか。



チャペル

**この問題を考慮しない霊性理解は、特に日本の教会を念頭に置く時、致命的欠陥を持つものとなるであろう。**

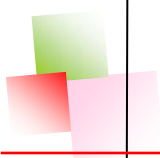
〔福音主義神学誌37より〕

## ディスカッションを通して信仰と宣教のあり方の検討を

これまでも神学研究会議の持ち方もいくつかのタイプがあった。今回は、外部から講師を招かず、西部地区の各神学校から発題者を推薦していただき、教派的な特徴や最近の研究の取り組みを生かし、コーディネーター会議でしぼったテーマに即して、それぞれの立場から発題をいただき、それ

をベースに会場[フロアー]からの自由な質疑を受けるかたちとさせていただく。パネル・ディスカッション形式で西部地区の会員全体で今回のテーマに取り組み、その取り組みをビデオに収録し、全国の必要な方々に頒布していきたいと考えている。

〔書記:安黒務〕



日本福音主義神学会 西部部会  
秋の研究会議のご案内

**主題： 教会と国家：右傾化する時代における信仰と宣教**

1. 日時：2007年 11月26日(月) 10:00am－4:30pm

2. 場所：神戸改革派神学校

〒651-1306 神戸市北区菖蒲が丘三丁目1-3 【TEL.078-952-2266】

3. 主題について

1) 今秋の研究会議のテーマを「教会と国家―右傾化する時代における信仰と宣教―」としました。今春は、教育基本法の改正を受けて「国家とキリスト教信仰」の主題で研究会議を行いました。今秋もこれと同様のテーマを取り上げ、ますます右傾化する現代社会で、いかに信仰の戦いをなし、また世に宣教していくべきか、いかにに良き証しと良き奉仕をなすべきかについて、互いに考え学び合いたいと願っています。

2) 今回は主講師を立てず、パネル・ディスカッションをすることにしました。このために、西部部会にある各神学校・神学教育機関にお願いして、一人の発題者をお立ていただくことにしました。発題者はそれぞれ属する教会の神学的伝統や立場からお話くださることと思います。

4. プログラム (司会・進行:安黒務 師)

10:00-10:30 開会礼拝:工藤弘雄 師

10:30-10:50 発題 10:50-11:10 質疑 小島十二 師〔関西聖書神学校〕

11:15-11:35 発題 11:35-11:55 質疑 津村春英 師〔大阪キリスト教短期大学〕

12:00- 1:00 昼食 ( 理事会 )

1:00- 1:20 発題 1:20- 1:40 質疑 瀧浦滋 師 [神戸神学館]

1:45- 2:05 発題 2:05- 2:25 質疑 遠藤克則 師〔神戸神学館〕

2:30- 2:50 発題 2:50- 3:10 質疑 橋本昭夫 師〔神戸ルーテル神学校〕

3:10- 3:30 休憩

3:30- 4:00 全体の質疑応答

4:00-4:30 全体の総括・閉会礼拝:市川康則 師

(コーディネーター:市川康則・工藤弘雄・安黒務)